

製品名: セントロビンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08657**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	100kDa

抗原情報

遺伝子名	CNTROB
別名	CNTROB; LIP8; PP1221; Centrobin; Centrosomal BRCA2-interacting protein; LYST-interacting protein 8
遺伝子 ID	116840.0
SwissProt ID	Q8N137
免疫原	抗血清はヒト CNTROB 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 591-640

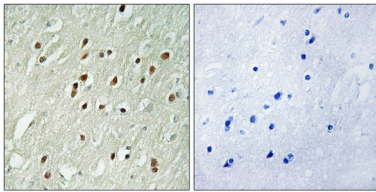
背景

この遺伝子は、BRCA2 と相互作用する中心体タンパク質をコードし、中心小体の複製および細胞質分裂に必須である。この遺伝子に

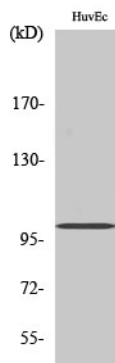
は、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2011年8月]、発生段階: G1 期後期または S 期前期の中心小体形成過程において、新たに形成された娘中心小体に優先的に組み込まれる。細胞周期を通して娘中心小体中に留まる。次の中心小体複製周期において、元の娘中心小体におけるこの遺伝子の量は最終的に減少する。機能: 中心小体複製に必須。中心小体複製の阻害により細胞質分裂に障害が生じる。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。配列注意: フレームの選択が間違っている。細胞内局在: 中心小体関連で、娘中心小体と非対称に局在する。サブユニット: LYST と相互作用する。組織特異性: 広く発現している (タンパク質レベル)。精巣で高い発現を示す。脾臓、胸腺、前立腺、小腸、結腸、末梢血白血球にも発現する。

研究分野

画像データ



CNTROB 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



Centrobin ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析